

和服構成におけるICTの活用

— 動画教材作成のための項目の検討 —

Utilization of ICT in Japanese clothes composition — Consideration items for creating video teaching materials —

服飾美術学科 金子 真希・寺田 恭子・河島 優子・田中 千紘

1. はじめに

文部科学省は、平成29年に小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領を告示し、平成30年に高等学校学習指導要領を告示するとともに学校教育法施行規則の関係規定について改正を行った。家庭科改訂の趣旨の(2)具体的な改善事項の教育の見直しには、【中学校 技術・家庭科 家庭分野】主として衣食住の生活において、日本の生活文化を継承する学習活動を充実する。「内容の取り扱い」では、日本の伝統的な衣服である和服について触れること。また和服の基本的な着装を扱うこともできること。¹⁾【高等学校 家庭科】「家庭総合」では、グローバル化に対応した日本の生活文化等に関する内容を充実する。等が示されている。また内容とその取り扱いにおいて、日本と世界の衣文化に関心をもち、伝統文化に蓄積された知恵や経験を現代の衣生活に生かすことができるようにすることをねらいとしている。被服と人の関わりについては、古くから伝わる年中行事や地域の催し物等を通して、和服の意義と役割を理解し、我が国の衣文化の継承・創造を担う一員として自覚できるようにする。²⁾と示されている。

本学服飾美術学科では、新学習指導要領の改訂内容に合わせ、令和元年度より「和服造形Ⅰ」を、中学校・高等学校家庭科教諭免許状必修科目とした。

著者らは、和裁経験のない学生が限られた時間の中で正しい技法を習得するための有効な学習方法としてICTの活用に着目し、基礎技術の習得について2014年度より試み、2015年から2018年の4年間の利用状況調査を行った。その結果、学生は時間を気にせず、個々の進度に合わせて時間外学習に利用していることが確認できた。そこで、「和服造形Ⅰ」の要目であるゆかた製作の動画教材作成のための指針を得ることを目的に2018年度の履修者を対象にアンケート調査を行った。その結果、あった方がよい「ゆかた製作の動画の間」で、共衿の掛け方、衿先の作り方、袖丸みの作り方、たたみ方、襷先の作り方、衿の付け方等の希望が挙げられた。

アンケート調査ではすべての製作工程の動画配信を望む声もあったが、これまでの経験から、動画に頼って授業中の集中力が落ちるといった傾向も少なからずみられるため、動画配信の時期や項目等は慎重に検討をすることが必要であると考えられた。

2. 目的

項目の検討は、作品評価を見直すことで、学生の理解し難い点を見つけることができると考え、授業の要目として学生が製作したゆかたの作品評価の調査を行った。「和服造形Ⅰ」では、シラバスに記載した「作品・基礎技術点70%」の評価方法を履修者が理解できるように、評価項目を作成して履修者全員に提示している。評価項目は、作品を製作する上で注意をして製作をする箇所であること、また評価のポイントであることを示したものである。その項目に則り点検し評価を行った結果から直しの多い項目に着目し、ゆかた製作の動画教材作成のための指針を得ることを目的とした。

表1 ゆかたの評価項目

	項目番号	評価項目
袖	1	袖丈が正しく、また左右同寸に出来ている
	2	袖口寸法が正しく、また左右同寸に出来ている
	3	袖口止まりの糸はゆるまずしっかり留められている
	4	袖口の三つ折り縮け幅が正しく折られている
	5	袖口の三つ折り縮けの方法が正しく、0.8cm間隔に縮けている
	6	袖口の三つ折り縮けは、袖口止まりより一針下から縮け始め反対側の一針下まで縮ける
	7	袖口の三つ折り縮けの針目を袖山に出す
	8	丸みが角ばらず出来ている
	9	丸みの縫い代は前袖に留められている
	10	袖は左右1枚ずつ出来ている
	11	丸み側の袖下の袋縫いが正しく縫われ縫い残しは開いている
	12	振り八つ口側の袖下の袋縫いが正しく縫われ、縫い残しは開いている
	13	袖口下のきせ分量が正しく、また毛抜き合わせに仕上げられている
	14	丸みのきせ分量が正しく、また毛抜き合わせに仕上げられている
	15	袖下のきせ分量が正しく、また毛抜き合わせに仕上げられている
	16	仕上げアイロンがしっかりかけられている
袖付けに関する項目	17	袖幅が正しく、また左右同寸に出来ている
	18	左袖が左身頃に、右袖が右身頃に付いている
	19	袖付けで肩山の所の糸がゆるまず、しっかりと縫われている
	20	振り八つ口で袖下縫い代が前袖に入っている
	21	袖下縫い代の袋縫いが、振り八つ口縮け位置まで正しく縫われている
	22	振り八つ口縮けで、袖下縫い代のきせ山から0.1cm上と袖下縫い代の上を小針で留めている
	23	袖付け寸法、また振り八つ口寸法が正しく出来ている
	24	袖付け止まりがしっかり留められている
	25	袖付けが真っ直ぐで、きせ分量が正しく仕上げられている
	26	肩幅が正しく、また左右同寸に出来ている
	27	身頃の袖付け縫い代は、肩山が0.4cmで0.3cm、0.2cmと少なくなり、袖付け止まりが0.1cmである
	28	肩山と袖山が合っている
関する共衿項目	29	共衿丈が正しく、左右同寸に掛けられている
	30	共衿先に0.5cmのきせがかかり、衿一枚に縫われている
	31	共衿先角の縫い代が正しく折られている(表・裏)
	32	共衿先角は衿に揃っている
	33	共衿が衿より0.1cm出て、衿の折山に白針がなく本縮けされている
	34	共衿の裏側が平行に0.4cm控えられ、白針がなく本縮けされている
衿に関する項目	35	衿丈寸法が正しく、また左右同寸に出来ている
	36	衿幅寸法が正しく出来ている
	37	衿下り寸法が正しく出来ている
	38	衿先の作り方が正しく、また止まりから直角に折られている
	39	衿先の留めがしっかり留められている
	40	衿先に0.5cmのきせがかけられている
	41	衿先縫い代が、衿の中で平らになっている
	42	衿先縫い代のとじ糸は表に出さない
	43	裏衿が白針がなく本縮けされている
	44	衿付けのきせは、共衿の掛かる所はきせをかけず、それ以外は0.1cmのきせをかける
	関する衿に	45
46		衿幅が正しく、また左右同寸に出来ている
47		合襖幅が正しく、また左右同寸に出来ている
48		襖先が正しく折れて、また正しく縮けられている
49		衿付けのきせが正しくかけられている
50		衿付けの縫い代は衿付けまで、正しく縮けられている
身頃に関する項目	51	前幅が正しく、また左右同寸に出来ている
	52	後幅が正しく、また左右同寸に出来ている
	53	背縫いの二重縫いが正しく縫われている
	54	背縫いのきせが正しくかけられている
	55	脇縫いのきせが正しくかけられている
	56	脇縫い代のかくし襷が正しくかけられている
	57	脇縫い代と身頃のつり合いが良く正しく縮けられている
	58	裾の三つ折り縮け幅は1cmで一定の幅に折り、1cmの間隔で縮けられている
	59	裾縮けで背縫い、脇縫い、衿付けの各きせ山より0.1cmの所に小針を出している
	60	裾縮けで縫い代の重なっている所は表まで小針を出している
	61	肩当ての中とじの方法が正しく、最後がしっかり留まっている
	62	肩当ての幅のつり合いが正しい
	63	肩当ての裾を脇縫い代の縮けの針目で一針留めている
	64	居敷当ての作り方が正しい(裾の伏せ縫い・四隅の折り方)
	65	居敷当ての高さが正しい
	66	居敷当ての中とじの方法が正しく、最後がしっかり留められている
	67	居敷当てが正しく縮けられている
	68	仕上げアイロンがしっかりかけられている
	69	本だたみが出来ている

3. 方法

(1) 作品評価

評価対象：2017年度・2018年度・2019年度 服飾美術学科1年生「和服造形Ⅰ（前期・選択科目）」の履修者

履修条件：2017年度・2018年度の「和服造形Ⅰ」（ゆかたの製作・着装）授業時間は180分（90分2コマ）15回および「服飾造形基礎」の授業時間は90分5回
2019年度の履修者の「和服造形Ⅰ」（ゆかたの製作・着装）授業時間は200分（100分2コマ）14回（カリキュラム改定による）

評価対象者数：417名（2017年度113名・2018年度153名・2019年度151名）

評価時期：2017年7月・2018年7月・2019年7月

評価項目：点検項目を69項目とし、文言は肯定文として記載し点検表を作成した。（表1）

評価方法：点検表に則り完成したゆかたを1点ずつ同じ手順で点検をし、直しが必要な項目は本人に説明を加えながら指摘（チェック）を行った。

評価担当者数：「和服造形Ⅰ」指導教員2名

(2) 評価調査

調査時期：2018年8月～9月、2019年8月～9月

調査対象者：上記の評価対象者全員（417名）

調査方法：点検項目（69項目）別にチェック数を調査した。

4. 結果および考察

評価は毎年「和服造形Ⅰ」の作品提出の点検の際に、授業担当者が点検表に則り完成したゆかたを1点ずつ同じ手順で点検をし、直しが必要な項目は本人に説明を加えながら指摘（チェック）を行っている。

調査は、2017年度から2019年度の評価対象者全員を調査対象とし、2018年8月～9月、2019年8月～9月に行った。調査方法は、点検項目別にチェック数を集計し、2017年、2018年、2019年別に単純集計を行った。

その結果、点検項目をチェックが多い順に見ると履修者全体の25%以上にチェックがある項目は、2017年が16項目、2018年が14項目、2019年が18項目で、のべ20項目であった。3年間の結果を表2、3、4に示す。表に示した3年間で比べると順位に変動はあるが、20項目中14項目（70%）が同じ項目であることがわかった。14項目の場所を図1に示し、さらに各項目の詳細を図1-1～14に示す。

チェック項目を使用されている技法と製作のための注意点に分けて着目してみると、紵（耳紵、本紵、折り紵、三つ折り紵）留め方（一針返し留め、すくい返し留め）きせのかけ方を用いるところで、毛抜き合わせや小針の出し方を注意して製作するところが多いことがわかった。

また、「服飾造形基礎」の授業が行われなかった2019年の結果を見ると、紵（三つ折り紵、耳紵、本紵）の直しの割合が「服飾造形基礎」の授業が行われていた、2017年、2018年と比べて、急激に上がっていることがわかった。

前報で行ったアンケート調査の「あった方が良い」ゆかた製作動画の希望が高かった作業工程は希望順に、共衿の掛け方、衿先の作り方、袖丸みの作り方、たたみ方などであったが、今回行った評価調査結果と比較してみると、学生の希望が少なかった袖付けに関する項目や身頃に関する項目もチェックの割合が多いことがわかった。

表2 2017年評価項目調査結果

n=113			
項目 番号	使用されている 技法	注意点	%
33	本縮け	合わせ方	51.33
22	耳縮け	小針の出し方	50.44
6	三つ折り縮け	縮けの位置	48.67
15	きせのかけ方	毛抜き合わせ	47.79
14	きせのかけ方	毛抜き合わせ	44.25
9		小針の出し方	43.36
13	きせのかけ方	毛抜き合わせ	42.48
59	三つ折り縮け	小針の出し方	42.48
67	折り縮け 耳縮け	縮けの位置	40.71
66		縫い方	38.94
48		折り方 小針の出し方	36.28
63	耳縮け	小針の出し方	36.28
4	三つ折り縮け	折り方	31.86
24	すくい返し留め 結び留め		30.97
3	すくい返し留め		28.32
7	三つ折り縮け	小針の出し方	25.66

表3 2018年評価項目調査結果

n=153			
項目 番号	使用されている 技法	注意点	%
66		縫い方	53.59
22	耳縮け	小針の出し方	52.94
33	本縮け	合わせ方	49.02
63	耳縮け	小針の出し方	49.02
67	折り縮け 耳縮け	縮けの位置	46.41
59	三つ折り縮け	小針の出し方	45.10
6	三つ折り縮け	縮けの位置	43.79
15	きせのかけ方	毛抜き合わせ	42.48
3	すくい返し留め		41.18
9		小針の出し方	38.56
48		折り方 小針の出し方	33.33
13	きせのかけ方	毛抜き合わせ	32.03
14	きせのかけ方	毛抜き合わせ	30.72
24	すくい返し留め 結び留め		26.80

表4 2019年評価項目調査結果

n=151			
項目 番号	使用されている 技法	注意点	%
6	三つ折り縮け	縮けの位置	64.24
22	耳縮け	小針の出し方	61.59
59	三つ折り縮け	小針の出し方	61.59
33	本縮け	合わせ方	57.62
66		縫い方	51.66
14	きせのかけ方	毛抜き合わせ	50.33
9		小針の出し方	49.01
13	きせのかけ方	毛抜き合わせ	49.01
63	耳縮け	小針の出し方	47.68
15	きせのかけ方	毛抜き合わせ	43.71
48		折り方 小針の出し方	41.72
24	すくい返し留め 結び留め		40.40
67	折り縮け 耳縮け	縮けの位置	38.41
38		縫い方 折り方	36.42
30		縫い方	33.77
3	すくい返し留め		30.46
32		合わせ方	27.15
12	標付け 袋縫い		26.49

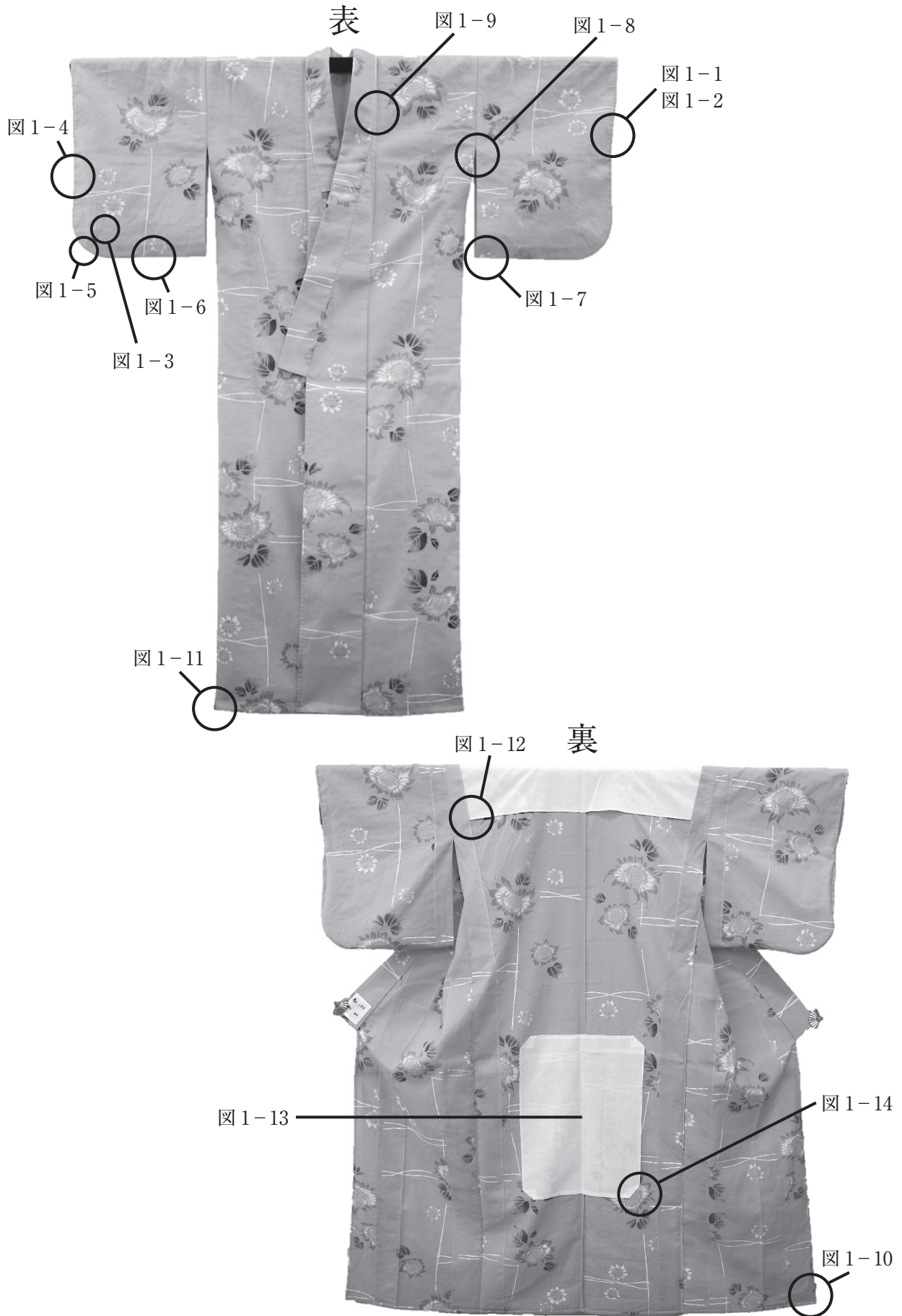


図1 チェックの多い14項目



図1-1 項目番号3

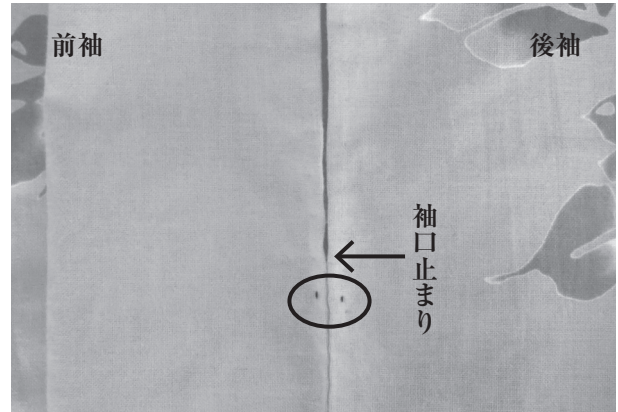


図1-2 項目番号6

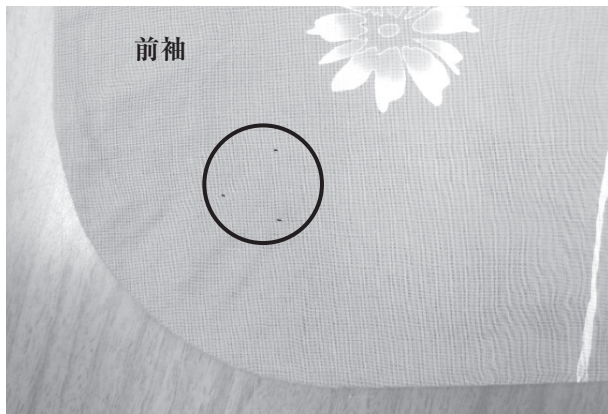


図1-3 項目番号9



図1-4 項目番号13

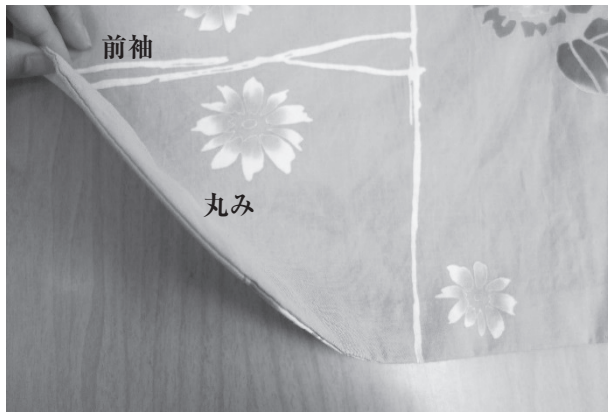


図1-5 項目番号14

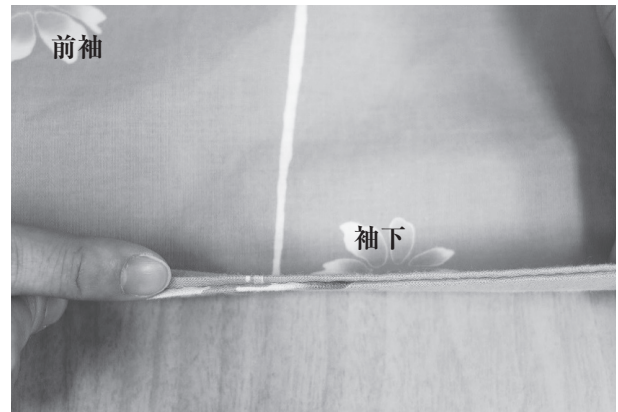


図1-6 項目番号15

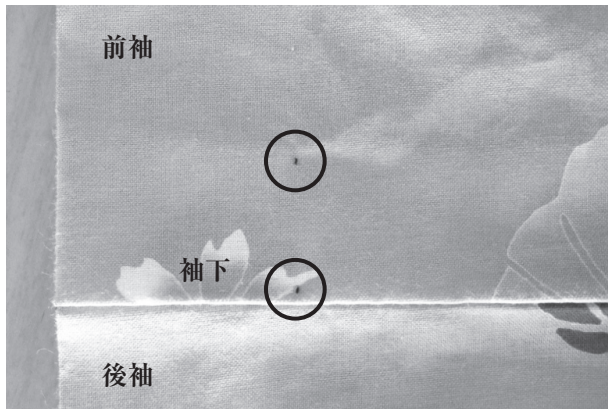


図1-7 項目番号22



図1-8 項目番号24

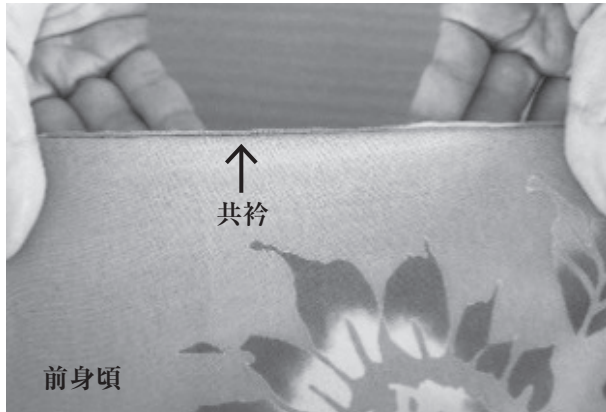


図1-9 項目番号 33

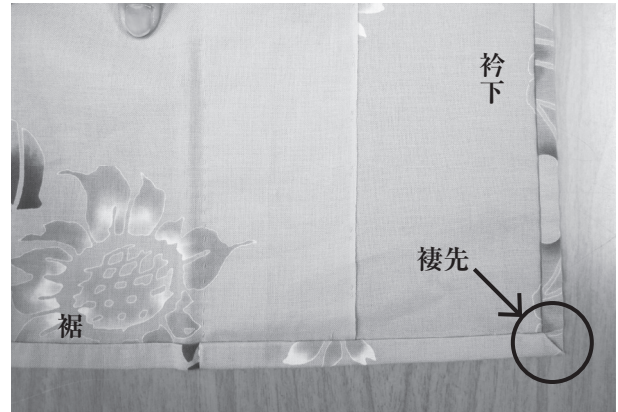


図1-10 項目番号 48

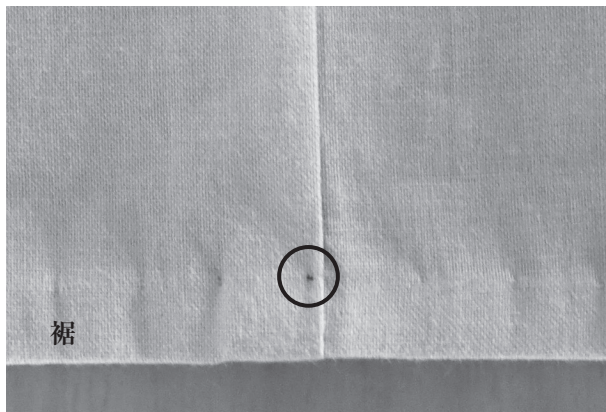


図1-11 項目番号 59

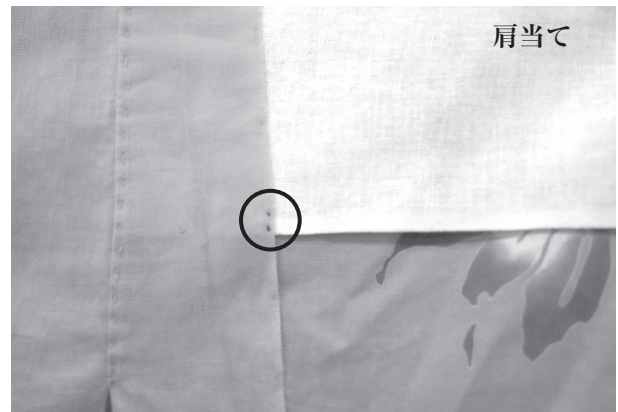


図1-12 項目番号 63

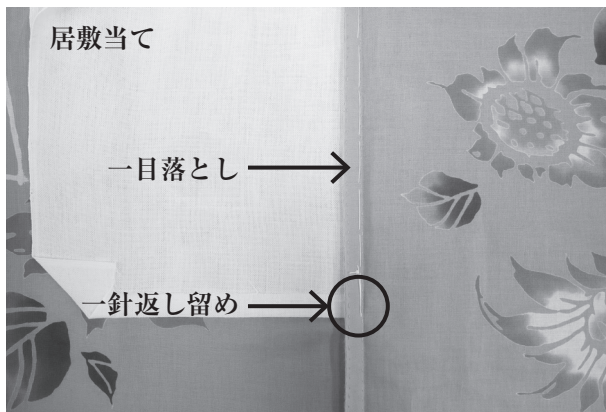


図1-13 項目番号 66

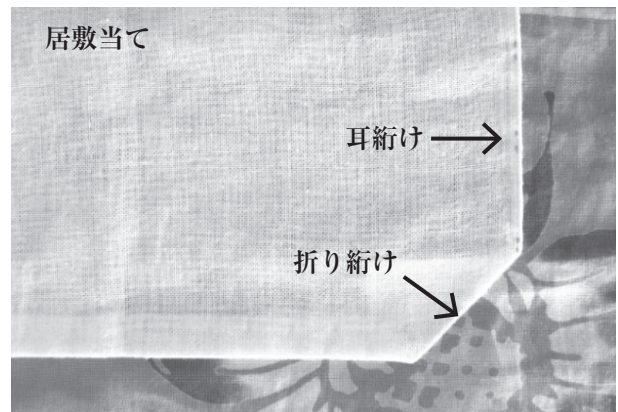


図1-14 項目番号 67

5. まとめ

著者らは、和裁経験のない学生に限られた時間の中で正しい技法を習得するための有効な学習方法としてICTの活用に着目し、基礎技術の習得について2014年度より試み、これまでの利用状況調査から多くの学生の利用を確認できた。次に、「和服造形Ⅰ」の要目であるゆかた製作の動画教材作成のための項目の検討を行った。前報で行ったアンケート調査で学生の希望が高かった作業工程と今回行った評価調査の結果では違いも見られ、学生の希望が少なかった袖付けに関する項目や身頃に関する項目でチェックの割合が多いこともわかった。得られた結果から、基礎技術習得のための動画と違い、ゆかた製作の動画作成においては、製作の注意点をわかり易く伝えることに重点を置き作成していくことが大切と考えられた。

今年度のチェックの割合が増えたことについては、今年度からカリキュラム改定により服飾造形基礎の授業が無くなったことも大きく影響していると考えられる。しかし、教員を目指す学生には日本の伝統的な衣

服である和服について正しい知識・技術を理解し、中学生・高校生に伝統を伝えてほしいと考えるため、今後は動画教材を有効的に活用することが求められると考える。技術を動画で伝え残していくことは、技術者が減少している現代において重要なことと考える。

この論文は、一般社団法人日本繊維製品消費科学会2019年年次大会でポスター発表した内容を一部含む。

引用文献

- 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』（2017）8, 96
- 2) 文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年度）高等学校』解説 平成30年改定（2018）68

参考文献

- ・金子真希、寺田恭子 「和服構成におけるICTの活用 —アンケート調査から—」教員養成教育推進室年報 第7号99-107（2018）
- ・寺田恭子、金子真希、河島優子、田中千紘 「動画教材のための一考察 —和服造形（ゆかたの製作）—」繊維製品消費科学会2019年年次大会・研究発表要旨157（2019）